

2015. 9. 25

No.191

編集・発行人 樋口みな子

E-mail  
minginga@agate.plala.or.jp  
URL http://www13.plala.  
or.jp/minginga/  
郵便振替「銀河通信」  
02740-7-56535  
(郵送6号分1,000円)



## 安保法制は戦争への道、声をあげ続けます



写真・九月某日の旭岳の紅葉と秋の空

札幌ではLove9の取り組みをしました。若い世代の人たちの「街中をLove9のポスターで埋めよう」という発想が素晴らしいです。私も何人かにお会いして憲法9条に寄せる思いを聴かせて頂きコミュニティサイトのフェイスブックで発信しました。市民の声をこれほど無視した政治を知りません。「憲法守れ」「いのちを守れ」と私も言い続けます。

安保法が9月19日未明、参院本会議で強行採決されました。審議も尽さず、自民・公明の数の力で押し切った光景を私は一生忘れません。

私もせめて反対の意思表示をしなければと、この2ヵ月間、デモや集会には出来る限り参加してきました。関連した講演会も含めると10数回に及びます。体力と資金があれば国会前集会にも参加したかったです。SEALDs（自由と民主主義のための学生緊急行動）のスピーチを直に聴きたいと思いました。

札幌は「戦争したくなくてふるえる」デモのおかげで労組中心のデモが様変わりしたと思います。

私たちが主権者であり、政治について考え、声をあげることは当たり前だと奥田愛基さんらのSEALDsが教えてくれました。

北海道民医連新聞

2015年9月10日

### デモに感動

友の会 樋口 みな子  
(江別市)

8月30日の札幌大行動に私も参加しました。国会前を埋めつくした人々の怒りの声の大きさにも胸が震えるほど感動しました。私たちが民主主義を作っているんだという実感がありません。こんなに「デモが日常になった」ことがあったのだろうか。若者が自分の言葉で訴える姿に心動かされました。

ミニコミ誌主宰 2015年7月26日北海道新聞朝刊

### 樋口みな子さん



会員の意向、市民の声を無視する首相の姿に、過去のドイツの独裁者が思い浮かんだ。昨年7月、ポーランドを訪ね、アウシュビッツ強制収容所を5時間かけて見て回った。何人分あるのか想像もつかない髪の毛の山。展示された遺品の生々しさに衝撃を受けた。ユタヤ人の大量虐殺について、学友が憲法違反だと言いつつ、市民の多くが反対している安全保障関連法案を、安倍晋三首相はなぜ強行に通そうとするのか。

ひぐち・みな子 日高管内平取町生まれ。江別市在住。元旭川医大病院臨床検査技師。銀河通信は今年、190号を発行する。

### 安保法制 私は言いたい

### デモや集会 誌面で紹介

て、現地でも10代や20代の若者が、自分たちの言葉で、安保法案への反対の声を上げ始めた。私自身、傍観者ではいけないと毎週のようにデモや集会に足を運び、その様子を「銀河通信」で紹介している。私たち60代も若者に負けていけない。

(聞き手・報道センター) 関口裕士

# 「安保法案を廃案に」—集会とデモの日々—

## 8.15 戦争しなくて ふるえるデモ

戦後70年の8月15日、戦争法案に反対して「平和しなくてふるえるDEMO」に参加しました。呼びかけたのは若者たち。発言者も20代の若者たちでした。沖縄から参加した青年は「平和は政治家がつくるので



なく僕たちがつくるのです。ネットで、友人と、隣の人とつながりましょう」と訴えました。集会後、ピアガーデンで賑わう大通公園をラップのリズムに合わせてコールしながら約500人がデモしました。若者たちの真っ当でストレートな「戦争で死にたくない！」のコールに私もウルッとしながら唱和しました。



## 8.29 「戦争法案、今すぐ 廃案」札幌集会

各地からの戦争法案に反対する人たちで、大通11丁目の会場はあふれました。「戦争させない」と書かれた赤いプラカード（写真）が壮観でした。「アベはやめろ」のコールはひときわ大きな声で。戦争法案を廃案にするまで、頑張ります。



## 8.30 「国会・10万人・全国100万人大行動」 札幌は「みんなでリレー トーク」



8月30日は北海道マラソンが午前中にあり、その後行われた札幌のリレートーク集会は紀伊国屋前で開かれました。

現役の前衛官が「戦争法案が不安だ。戦場で人を殺すのも殺されるのも

嫌だ」と訴え、切迫感が伝わってきました。

北大の先生や市民が次々と発言しました。リレートークは、それぞれがなぜ反対するのか分かりやすいですね。私にマイクは回ってきませんでした。何を話すか考えました。その後 戦争法案は廃案にと参加者みんなでコール。東京では12万人が国会を包囲し、全国1000箇所以上の地で抗議行動がありました。

## 9.1安保法案反対 ！リレートークin 北大



9月1日に「安保法案反対！リレートークin北大」に参加。大学教

員や学生、市民70人の参加でした。

道内7大学が安保法案に反対する声明を出した経緯と報告がありました。

北大教授の宮内泰介さんは、「職員の1割240人を超える賛同が寄せられたことは危機感の表れである。人びとが積み重ねてきた平和への思いや歴史を否定するのが安保法案であり、廃案に追い込んで民主主義を取り戻そう」と訴えました。

室蘭工大の清末愛砂さんは「バグダードはアラブ人にとって知の中心地であり『知恵の館』として大事にされてきた。イラク戦争で外国軍の侵攻により多数の人々の命が奪われ、最も危険な街に変貌してしまった」と語り、北海学園大学の本田宏さんは「反対する市民の声にも耳を傾けるのが民主主義」と述べました。

人権活動家の安積遊歩さんは「戦争で一番最初に犠牲になるのは障がいのある私たちです」と訴えました。（写真・清末愛砂さん、安積遊歩さん、本田宏さん）

## 9.6 「戦争する国」NO！輝け九条！ 市民大集会

北海学園大学での講演会です。400人の参加。戦争しなくてふるえるデモの高塚愛鳥（まお）さんがスピーチ。「市民運動をする人の中でも女性差別がある」と批判しました。マスコミに取り上げられてネトウヨの中傷、嫌がらせはひどかったと発言。「デモをしながら友人に呼びかけているが、頑張っただけでなく、みんなが自分のこととして考えて欲しい」と訴えました。



講演した小森陽一さんは「戦争法案に反対する国民的な運動で安倍政権は追いつめられている。60年安保の時は国会を30万人が包囲したが、今は各地で同時多発的にデモや集会が行われている。女性独自の運動の広がりや、学生や若者たちの運動が全国に広がっている。草の根からの怒りのうねりで戦争法案を廃案にしよう」と訴えました。その後、参加者でデモもしました。

## 9. 18戦争をさせない北海道総がかり行動



キリスト教や仏教者らが呼びかけた「安保法制に反対する北海道宗教者連絡会」が主催した北光教会での座り込みに、傘や雨合羽で夕方からデモまでの1時間参加しまし

た。

デモに参加したことがない戦争を体験された方たちもいらして「平和を守りたい」という気持ちがひしひしと伝わってきました。

大通デモでも牧師さんが懸命に太鼓をたたいて廃案を訴える姿が印象的でした。

デモは悪天候にも関わらず1800人が参加。「戦争法案廃案」「アベはやめろ!」「9条守れ!」と声を限りに訴えました。

子どもを抱いたお父さんの姿もありました。降りしきる雨にも負けず、コールはいつもより大きく感じました。

19日未明、数の力におごった自民・公



明で安保法制が強行されました。悔しいけれど私たちは沈黙しません。ここからが始まりです。

民主主義って何だ！これだ！

## 9. 9Love9 DAY アクション



てくてくLove9に参加。紀伊國屋前での安保法案反対のリレートーク中のところで、連帯のポスターを配り、大通りで、ポスター配布チ

ームと合流しました。札幌弁護士会が署名活動中でした。それから狸小路に入り、実行委員のメンバーがポスターを貼らせていただいたお店に「ありがとう」を伝えて終わりました。



## 上野千鶴子さんとともに考える安倍政権

8月1日早朝から、「怒れる女子会」札幌の主催で社会学者でジェンダー研究で知られる上野千鶴子さんの講演と、今の政治への怒りを語り合う会がありました。



上野さんは、「アベ政治を許さない」というTシャ

ツで登壇。安倍政治への怒りを表明されてお話を始めました。(以下は上野千鶴子さんの講演要旨です)

40年ぶりにデモに参加しました。最近、全国どこにいても心は国会議事堂前にいます。SEALDsが中心となった安倍政治にNOを突きつけるデモやスピーチは、国会議事堂前でなくても、全国どこでもできます。今怒らなくて、いつ怒る!

怒りは女にとって最も禁じられた感情でした。安倍政権は、勘違いの女性政策を進めています。女性が輝く?男性が輝くとは言わないでしょう。男女格差世界ランキングで、日本はいつも100位くらいです。国は豊かなのに女が貧しい、ジェンダー格差があります。女性にとっての課題は雇用です。非正規労働者3割になったが、そのうち女は7割。30すぎても非正規労働者が多い。努力しても報われない人は必ずいるし、強者もいつ弱者になるか分かりません。日本は弱者になっても安心できる社会になっていない。

私たちは弱者だからこそつながる必要がありますが、強者の方が連帯がうまいのが現実です。シールズなどの市民の頑張りを無駄だと揶揄する人もいますが、小熊英二のドキュメンタリー『原発を止める人びと』に書かれているように、デモなどの世論に配慮して、原発再稼働は遅れています。即時脱原発は達成されているし、それでやっていけていることを立証できていることに私たちは誇りをを持つべきです。私達が意思表示することは有効なのです。沈黙は同意。歩き方を知った私たちは、立ち止まることはないでしょう。選挙の結果にがっかりしている暇はないのです。

日本は今、どの段階なのでしょう。すでに学校、メディア、在日外国人が攻撃されています。政治家に権力を与えたのは私達です。安倍首相の主人は私、のはずです。だからこそ、デモなどの



直接民主主義が不可欠なのです。(佐井亜紀さん議事録を活用させて頂きました)

上野さん講演後10のグループに分かれて今の政治への怒りを語り合いました。

# 開発教育全国研究集会と 二風谷エクスカーションに 参加して



開発教育全国研究集会が北大を会場に8月8日～9日とあり参加しました。

テーマは「市民性」を育む開発教育です。開発教育ってど

ういうことなんだろう？というのが参加の動機です。

開発教育とは「知り・考え・行動する」という視点で取り組む教育活動だと謳っています。だからなんですね。全国からたくさんの教職員が集まりました。

ユニークなのは、さまざまなテーマで世界を知ることでした。私が体験したワークショップは「世界がもし100人の村だったら」です。スライドは教材なので撮影は禁止です。実際のワークショップは35人で行われました。

世界の中で富裕層はほんの一握り。中間層と低所得層が大半を占めていることが分かりました。貧しい人たちは食べることも不自由な現実を知りました。現実を知って何が出来るかを考えるのがワークショップだ。

午後からは「市民が作り出す社会へ～日本の今。私たちのこれから～」と題するパネルディスカッションでした。「平和研究」「環境社会学」



を大学で担当されている岩崎裕保さん、人権活動家の安積遊歩さん、アイヌアートプロジェクトの結城幸司さん（写真）が発言し、会場から質問を受け答えるという形で進められました。安積さんは障がい者として生きてきて、闘ってJRや地下鉄に障がい者用のエレベーターを実現させたと言いました。北海道の地名はアイヌ語が基になっているのにまったく無視されてきた。本当のことを知ってもいいのではないかと問題提起された結城さん。また団塊の世代の人たちは、今の人たちに当時やってきたことを表現できていないの



ないか？という痛烈な批判もありました。

普段、あふれる情報を一方的に受取ることが多いですが、グループ討議をする中で自分で考え、言葉にすることの大切さを学びました。全体集会で、あな

たにとって「市民性」とは？と問いかけられました。難しいですね。考える力を持つことかな？アーレントが繰り返し言っていたことを思い出しました。

10日、平取町二風谷エクスカーションに参加しました。札幌駅に集合しバスで二風谷へ。

参加者は34人。講師の渡辺圭さん、事務局の小泉雅弘さん（自由学校「遊」）のほかは道内はAさんと私を除いて、沖縄、大分、大阪、山形、東京、東京周辺の方たちでした。私が参加を決めたのは、自分の生

まれ故郷が今どうなっているのだろうか？という思いからでした。

行きのバスでは参加者が自己紹介し、渡辺さんからアイヌ語のあいさつなどを教わりました。

札幌から2時間少して着き、二風谷アイヌ文化博物館をその職員でもある関根健司さんの案内で、駆け足で見学しました。アイヌの工芸技術の高さに驚かされました。



展示は和人がアイヌの人々の土地を奪い殺戮した歴史が一切語られてないという感想が何人かからありました。

昼食は貝沢雪子さんお手製のアイヌ料理のお弁当が美味しくて大好評でした。（写真上・ポロチセ）



その後、関根さん（左写真）と、貝沢守さんの案内で森を散策。日常品や工芸品の材料になる木が多数密生している自然を満喫。ヤチダモ、ハンノキ、ノリウツギ、カツ

ラ、ハルニレ、ホウノキ、イタヤカエデなど多数。博物館にはカツラで作られた見事な船の展示もありました。貝沢さんは、なたで手頃な枝を切って、クマよけの笛を作ってくださいました。その手際と、あるものを上手に使う智慧に感心しました。

工芸品の制作の実演も見せていただきました。貝沢雪子さん（右写真）はアットゥシ織を伝え続けて50年になるそうです。繊細な織と、色合いがすてきでした。



アイヌの伝統的な手工芸の振興・発展に尽くされていて、これまでに北海道アイヌ伝統工芸展などに出品した作品は多くの賞を受賞されています。貝沢徹さんは独創的なアイヌアートに精力的に取り組んでいます。東京の大学から依頼された作品を製作中でした。

関根さんによる、アイヌ語ミニレッスンも楽しかったです。ちなみにミナは笑うという意味で、みな子の名前がいつも笑顔での願いが込められているようで嬉しかったです。

エクスカーションを締めくくったのは86歳の木幡サチ子さん（下写真）のアイヌ語での語りと解説でした。

サチ子さんは、5歳の頃、アイヌ語を覚えたそうです。でも長い間アイヌ語を使うことはなかったため、萱野茂さんに「アイヌ語が下手だな」と言われたことに発奮。萱野さんの所に自分で車を運転して通いつめ、アイヌ語を学んだ方です。伝承者としての誇りが伝わってきました。



## 子どもの未来、大人の責任

原子力のない未来—小出裕章さん講演



8月29日、共済ホールで小出裕章さんの講演会があり350人が参加。小出さんは研究者として一貫して原発に反対して来られました。

講演では、事故からまもなく4年半となる東京電力福島第1原発について「溶け落ちた炉心がどこに、どんな状態であるかさえいまだに分かっていない。被曝を強いられる作業がこれから何年続くかも分からない。汚染水もたまり続けていて事故

はまったく収束していない。人が近づくことができないため、ロボットを導入したがうまくいかなかった。ひたすら水を入れているが、50～60万トンの放射能の汚染水がたまっている」と語りました。

危険な作業は下請労働者が担っており、その下請も8つぐらいあって下請の下請になるにつれて労働者の賃金がカットされていく仕組みについても厳しく告発しました。（写真・講演する小出裕章さん）

故郷を追われた人々は10万人を超えています。「事故収束宣言をした2013年、安倍首相は『完全にコントロールされている』と発言し、オリンピックを誘致した。信じられない暴挙だ。福島の人々をそのままにしてオリンピックどころではない」と語りました。

福島原発事故によって、1、2、3号機から大気中に放出されたセシウム137は「広島原爆168発分に及ぶ」ことを説明し、「この数字は、過小評価だと思う。原発安全神話をばら撒くことに加担していた政府の発表である。本当は、この数字の2～3倍はあるだろう」と指摘しました。

事故後の放射能は、風に乗って福島県の東半分を中心にして、東北、関東の一部で放射線管理区域に指定しなければいけないほど汚染された。日本では一般人は1年間に1ミリシーベルト以上の被曝をしてはいけないし、させてはいけないという法律がある。放射線管理区域から1㎡あたり4万ベクレルを超えて放射能で汚れたものを管理区域外に持ち出してはいけないという法律もあったが、国はすべて無視している。国は、自ら定めた法律を反故にし、人々を見捨てている」と語りました。

福島県民をはじめ、多くの人々が現在も放射性物質に汚染された土地での生活を余儀なくされていることに触れ、「原発を許してきた大人には、被ばくに敏感な子どもたちを守る責任がある」と強調しました。「原子力を推進する側は、福島の被害を小さく見せようとするが、私たちは現在も進行中の悲劇を決して忘れてはいけない」と訴えました。

市民放射能測定所はかーる・さっぽろが主催。（ユーストリームの映像で確認して発言をまとめましたが詳しくは小出さんの著書をお勧めします。）

小出さんの写真は及川文さん撮影

## 「北星問題」の意味するもの 負けるな北星！の会の1年

「負けるな北星！の会（マケルナ会）」設立1周年記念シンポジウムが9月19日、札幌市内で開かれました。

シンポジウムは、「負けるな北星！の会」呼びかけ人の内海愛子恵泉女学園大名誉教授、ニューヨークタイムズ的一面で北星大問題を報じたマーティン・ファクラー前東京支局長の講演と、学内で「脅しに屈するな」と声を上げた勝村務北星学園大准教授と宮崎理元北星大大学院生、それに呼びかけ人の神沼公三郎北大名誉教授、札幌市民として、運動をバックアップされた秋山孝二さん、法的支援に尽力された郷路征記弁護士が、森啓自治体政策研究所理事長の司会で討論をしました。

最初にマケルナ会の事務局を担う今川かおるさんから、1年間の活動報告がありました。

詳細にお伝えしたいのですが、紙面が限られていますので一番伝えたい部分を抜粋します。

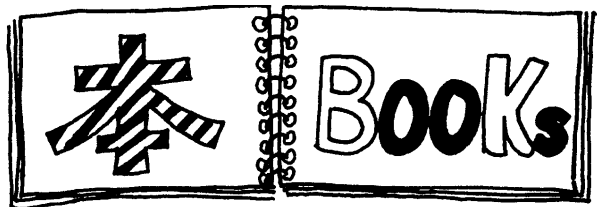
「植村問題が起こった時期、安倍政権が復活し過去の歴史をあからさまに否定する勢力が、政治の世界でも、残念なことにメディアでも、大手を振るうようになっていました。憲法や平和をテーマにした市民活動に対し、公的機関までが支援を躊躇するような事態も起こりました。特定秘密保護法の成立もありました。とても多くの人が、不安や怒り、そして重苦しい嫌な気持ちを抱えていました。ちょうど綿あめが機械の中で渦巻くように、そんな思いが社会にフワフワ沢山充満していました。マケルナ会はそのような渦の中へ、自由と民主主義を守ろう、北星学園大学を応援しようという、割り箸を入れたのです。綿あめはどんどん、『予想を超え』て大きくなりました。そしてそのことが小さな大学の大きな勇気ある決断へつながったと思います」と述べました。

内海さんは在日韓国・朝鮮人の人権・戦後補償運動を担ってこられました。朝鮮や在日の人たちに対する歴史的な責任があると考え在日朝鮮人差別をテーマにしてきた研究者です。「今回、既存メディアが朝日バッシングの雰囲気醸成し、それに触発されてフラストレーションを叩き込むような発言がインターネットで発信された。匿名の発言や情報の発信は時には脅迫やいやがらせにつながりやすい。ネットはこの脅迫を簡単に拡散できる仕組みを持っている」と発言しました。

前ニューヨークタイムズ記者のファクラーさんは「安倍晋三首相の右寄り政権のもとで燃え上がった、戦争中の日本の罪をなかったことにしたい最新の一斉攻撃だ」と断じ、「朝日新聞の勇気ある独自の深い調査報道を期待している」と述べました。

郷路弁護士は「恐怖心を取り除き、大学側は正常な判断ができるようにしなければならない」と述べました。





## ぼくらの民主主義なんだぜ

高橋源一郎著 朝日新聞出版 780円

朝日新聞に2011年4月から今年の3月まで連載された「論壇時評」をまとめたのが本書です。

高橋源一郎さんの熱心な読者ではありませんでしたが、安保法案に反対する声が高まるにつれて、民主主義がないがしろにされている状況をなんとかしなくてはと思うようになりました。

本書は東日本大震災と原発事故、就活、TPP、ヘイト・スピーチ、特定秘密保護法、従軍慰安婦、表現の自由などを取りあげながら、解決するにはどうすればいいのかを柔らかな思考で提示します。

今、私たちの社会はあたかも「たが」が外れたかのように、差別と憎悪、隠蔽と欺瞞が猛烈な勢いで蝕みつつあることをえぐり出します。

台湾議会占拠の学生たちのたたかいで最後まで占拠継続を主張した学生の言葉を紹介し、「民主主義とは、意見が通らなかつた少数派が、それでも『ありがとう』と言うことのできるシステムだ」と書きます。そうか！と納得。

あとがきに次のように記しています。「この国は（おそらく）かつて一度も体験したことのない未知の混乱に入りこんでいったように見えた。だから、ぼくは、一回一回の『時評』を、ほんとうに手探りするようを書いていくしかなかった。大きな声、大きな音が、この社会に響いていた。だからこそ、可能な限り耳を澄まし、小さな声や音を聞きとろうと努めた」と。

安倍政権は民主主義とは相容れません。著者は自分たちの民主主義をつくりあげようとする人々の意志を明確に示して爽快。

## 獄中メモは問う

作文教育が罪にされた時代

佐竹直子著 北海道新聞社 1296円

1940年から41年にかけて北海道で56人の教員が治安維持法違反容疑



で逮捕されました。教員らは、子どもたちに、日常の暮らしをありのままに作文を書く実践に取り組んでいただけでした。

著者は北海道新聞釧路支社の記者です。13年8月、同事件で逮捕された元教員の松本さんがひそかに書き残した「獄中メモ」に偶然出会い、多くの関係者を訪ねて事件の真相に迫った労作です。

厳しい取り調べで共産主義者と信じ込まされ、共産主義を捨てる「転向」の自白をさせられる過程と心理状態が克明に綴られていました。

取材は国会で特定秘密保護法が審議され、適用

範囲があいまいで問題になっていた時期でした。マスコミはその危険性を指摘しながら、反対の世論が高まらず、秘密保護法が成立したのです。今思うと悔しいです。

当時、無念の思いで、獄死した教員もいたのです。戦後、治安維持法が廃止になり、逮捕された教員は社会に戻りましたが、教壇を追われて別の仕事につかざるを得ませんでした。こんなことが許されていていいのか？と怒りで震えました。

戦後も苦勞された元教員の松本さんのメモは、息子さんも長く知らなかったそうです。「父が生きていたら、作文が罪になったあの時代を繰り返していいのかと声を上げるのではないかと語っていたのが胸に突き刺さりました。秘密保護法に戦争法。戦前の悪法が今の時代にとっても似ていると背筋が寒くなりました。

## わたしとあなたのけんぽうBOOK

水野スウ著 紅茶の時間発行 600円

「銀河通信」の長い読者であり、自身も「いのみら通信」を発行している水野スウさん。さまざまな人が語り合う場「紅茶の時間」を石川県津幡で開いています。10年前から



は憲法について、あちこちに出向き話す活動もしてこられました。本書はこれまで語ってきた話をまとめた小冊子です。

全七章で構成され、憲法は何のためにあるか、成り立ち、戦争放棄をうたう9条などについて具体的な事例をあげて解説しています。

「わたしの12条宣言」がとてもいいです。「私たちの自由や権利は、ほかから奪われたりおかされたりしないもの、だからといって憲法にまかせきりってわけにはいかない。だからこそ、私たちは、国がすることを、いつだってちゃんとよく見張ってなきゃいけない。国が、私たちの権利をないがしろにする時、はっきり声に出して意思表示をしなければならぬ。私たちの自由と権利を持ち続けるために国民の不断の努力を普段からすること」だとスウさんは実践されています。明解ですね。デモは、12条の実践だったのだとストンと胸に落ちました。

小冊子はB6判、152ページ。600円（税込み）。問い合わせは、水野スウさんTEL076-288-6092へ。



## ダメなものはダメと言え 《憲法力》を身につける

親子で憲法を学ぶ札幌の会編  
寿郎社 1000円

昨年自費出版した3冊のブックレットの内容に新たに対談や書下ろしを加えて1冊にまとめたのが本書です。

元裁判官の高橋幸一さんが勉強会で発言したものを加筆・修正し、高橋さんと「おやけん」共同

代表の安齋由希子さんとの憲法対談と、同じく共同代表の安川誠二さんが書かれた「戦争の歴史を反省して生まれた日本国憲法」「歯止めとしての憲法9条を守り育てよう」「日本は『ブラック国家』への道を歩むのか」「いまこそ、立憲民主主義を取り戻そう」の4つの章が加えられています。

安齋さんは、以前は憲法に関心がなかったけれど「当たり前の日々こそ実は貴重な日々なんだ」と気付いたと語っています。

秘密保護法、集団的自衛権、安保法で、憲法がこれほど身近になったことはありません。「けんぼうBook」と一緒にお読みください。



## もしも、詩があったら

アーサー・ビナード著 光文社 860円

「もしも」をキーワードに、その言葉を含む古今東西の詩を取り上げた新書です。

本書は4章構成でⅠ「もしも」と出会う、Ⅱ恋する「もしも」、Ⅲ世界を見つめる「もしも」、Ⅳ「もしも」と生きる。これらの章に収録されている英語と日本語の詩はビナードさんの体験と重ねあわされて、より詩と暮らしは結びついていることを実感します。ビナードさんのあらゆる分野への好奇心にも驚きます。書道教室に通い、小学生と鬼ごっこことをしてアメリカにも同じ遊びがあったことに気づいたり、短歌を詠み落語にも目覚めます。

鋭い時代批判を織り込んだ詩と詩人も多数紹介しています。たとえばベンジャミン・マッサーの反戦詩「もし戦争になるのなら」や、ヘンリー・デイヴィッド・ソローの「森の生活」など。もちろん、ソローが生きていた時代には核開発はありませんでしたが、代わりに急ピッチで進められる鉄道開発がもたらす自然破壊と人間破壊に触れ、「もしもやめたら？」と問いかけています。

鬼ごっこにちなんだエピソードをこう記します。「人生において一度、思いきりタッチされ、いきなりitになって呆然と立ちすくんだことがあった。12歳のときだ。飛行機の墜落事故で父親が死んで、一夜にして長男のぼくが、父親の立場になってしまった。(略)だれかがyou're it.とささやいているようだった」と。ビナードさんが拠り所を失った哀しさが目に浮かぶようで一番印象に残りました。

デモとさまざまな集会の記事が多くて、映画の紹介があまりできませんでした。「野火」「この国の空」「博士の異常な愛情」「あの日のように抱きしめて」は戦争の残酷さや、普通の暮らしが壊されることをさまざまな角度から教えてくれました。

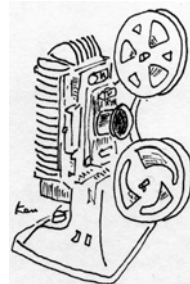


秋の旭岳

「獄中メモは問う」を読んで三浦綾子の「銃口」展をみてきました。「自分の考えをありのままに書けばいいんだよ」と指導しただけで治安維持法に反するとされた時代があったことを忘れてはならないと思います。

## 沖縄 うりずんの雨

ジャン・ユンカーマン監督



沖縄の悲惨な戦争の歴史と基地に苦しめられてきた実態、それでも基地に反対し続ける不屈の闘いを描いています。元海兵隊員、学者、平和運動に携わる人など19人の証言でつづります。監督自身が担当したナレーションは、説明が少なく簡潔です。証言はまったくあいまいさがなく、事実の重さに聞き逃してはならないと少し緊張しました。でも抑制が効いていて、心に響きました。小室等の音楽もいいです。

監督は映画のタイトルを、歌人小嶺基子の「うりずんの雨は血の雨 涙雨 礎の魂 呼び起こす雨」から引いています。草木が芽吹く3月頃から、沖縄が梅雨に入る5月くらいまでの時期を指す言葉。沖縄地上戦がうりずんの季節に重なり、戦後70年たった現在も、この時期に当時の記憶が甦り、体調を崩す人たちが少なくないといえます。

なかなかチビチリガマで起きた集団自決について語られることがありませんでしたが、今回のドキュメンタリーで遺族の証言を聞くことができました。

1990年に家族で初めて読谷村のチビチリガマに行き、腰をかがめなければ入れないほど狭い壕に入った時の衝撃は今でも忘れられません。教育によってなされた強制的な死の現場であったことを忘れてはならないと思います。沖縄に基地を押し付けたままでいいのか？と鋭く問いかけるドキュメンタリーです。



## ゆずり葉の頃

中みね子監督

市子（八千草薫）は軽井沢で開かれている国際的な画家の個展に

出向きます。どうしても思い出の一枚の絵が見たくて。少女時代の初恋の男性が画家になっているのです。

軽井沢では、すてきな喫茶店のマスターや、そのつながりでペンションのオーナーなど、さまざまな人たちとの出会いで、幼なじみの画家（仲代達矢）にめぐり会います。一途な思いは通じるのですね。80代になっても昔のことを忘れないで大事にしてきた思い出がすてきです。多分、何度も何度も困難に直面した時に、思い出したのは、疎開先の風景と淡い恋だったのではないのでしょうか？ 市子は息子（風間トオル）に「ゆずり葉」のように生きていきたいと言います。それは息子に頼らずにひとりて生きていくという覚悟でした。ゆずり葉は青々としたまま葉を落とし、次世代にゆずっていくのだと語り、その潔さを見習いたいと。まさに八千草薫さんその人だと思いました。

## わたしに会うまでの1600キロ



アメリカ ジャン＝マルク・バレ監督

実在の女性シェリル・ストレイドの自叙伝をもとに、最愛の母を失ったひとりの女性が、

人生をリセットするために1600キロのパシフィック・クレスト・トレイル（PCT）の徒歩旅に挑む姿を描きます。PCTはアメリカ西海岸の自然歩道ですが、極寒の雪山や酷暑の砂漠に行く手を阻まれ、命の危険にさらされながらも、その過酷な道程の中でシェリルは自分と向き合っていきます。私も一緒に歩いているように追体験できました。

ウィザースプーンがシェリル、ローラ・ダーンがシェリルの母を演じました。

ザックは背負えないほど重く、石に腰を下ろして背負います。食糧は、中継地点で友人から送ってもらうのですが、テント、シュラフ、水、着替え、数日分の食糧、ガス、着替えなど最低限であっても20kgはあったのではないかと思います。中央分水嶺を仲間と踏査した日を思い出しました。

山歩きの経験も知識もないシェリル。大自然の厳しさに向き合い、テントでは母亡きあとのすさんだ生活がフラッシュバックします。回想シーンが秀逸。自らの足で歩んだ距離はそのまま心の移動距離となり、いつしか彼女を逞しく成長させていくのです。傷つきながらも愛情いっぱい子供を育て、心の自由さを失わなかった母はシェリルの心の支えだったのです。母を演じたローラ・ダーンの笑顔がステキでした。親子の深い絆に感動しました。サイモンとガーファンクルの「コンドルは飛んでいく」の音楽が心にしみました。

母親も自然も偉大だと改めて感じる作品。同名の自伝も読みました。原題はWildです。



## 奇跡のひとマリーとマルグリット

フランス ジャン＝ピエール・アメリス監督

舞台は19世紀末の

フランス。修道院に併設された聴覚の不自由な少女を教育する学院に、生まれつき目も耳も不自由で、一切教育を受けずに育ったマリーがやってきます。野生児のマリーは学院長からも受け入れを断られますが、修道女のマルグリットはマリーに何か心惹かれるものを感じ教育を始めます。実話をもとにした映画です。

入浴も着替えも抵抗するマリーに誠意をこめて接し、言葉の存在を分からせ知性を引き出すのです。二人の魂と魂のぶつかり合いや、マリーがそれに応えていく様子が素晴らしく、教育の力の大きさに胸が熱くなりました。愛用していたナイフが何に使うものかを手話で会得する瞬間や、父母に愛する気持ちを伝えるシーンが印象的です。

修道女マルグリットの余命はもうわずかでした。それを知ったマリーの献身と、マルグリットの死を受け入れていくさまは感動的。

## カンデアルの奇跡 上映会のお知らせ



貧困、麻薬、犯罪で荒廃していたブラジル・バイーア州のコミュニティ「カンデアル」。そこで生まれ育ったカルリーニョス・ブラウンは、音楽の力で地域を再生しようと試みます。それは、音楽の喜びを伝えてくれた地域の年長者たちへ

の敬意と恩返しであり、未来を担う子どもたちへの愛情でもありました。

一方、キューバ生まれの85歳の老ピアニストベボ・バルデスは、自らの音楽とアフリカ系黒人としてのルーツを探るために、50年来の念願だったカンデアルを訪れ、カルリーニョスら世界的に著名なブラジル人ミュージシャンらと交流します。

子どもたちが生き生きと音楽を楽しむ姿、ふんだんに盛り込まれた演奏シーンも圧巻です。是非ご覧ください。

会場：札幌エルプラザ3F 上映14:00 16:40  
19:20 チケット前売り1000円です。希望の方は樋口090-6870-9225又はminging a@agate.plala.or.jpに。

## 購読料とカンパをありがとうございます (敬称略) 2015.7.29~9.19

海川敏雄(函館市) 成田明(札幌市) 岡安聡子(札幌市) 北村巖(札幌市) 林心平・恭子(札幌市) 増子敏一(札幌市) 鳥居明子(札幌市) 反橋一夫(札幌市) 尾崎弘子(札幌市) 安田成男(札幌市) 蓬田三枝子(札幌市) 小澤登美栄(八千代市) 新妻徹(札幌市) 篠田江里子(札幌市) 畠山紀子(札幌市) 加藤多一(小樽市) 高橋春枝(札幌市) 三島春光(東川町) 矢内秀次郎(小金井市) 野村保子(函館市) 合田美津子(登別市) 増子暎二(札幌市) 井上昌和・浅川身奈江(札幌市) 菊池和美(札幌市) 伊藤恒雄・牧子(江別市) 柴崎徹(仙台市) 和田マサ子(豊浦町) 高富拓生(嘉麻市) 木村玲子(札幌市) 鎌田直子(市川市) 北道米雄(札幌市) 佐々木睦子(横浜市) 刈谷史郎(札幌市) 斉木登茂子(中野区) 佐々木タエ(札幌市) 本郷千弥子(札幌市) 亀田法子(江別市) 片岡次雄(函館市) 大庭保夫(加賀市) 小野純江(練馬区) 村田和子(水巻町) 吉岡しげ美(練馬区) 松川洋子(札幌市) 新西孝司(札幌市) 合計113,300円

ほんとうにたくさんの読者の方々から購読料にカンパを加えてお送りくださいました。印刷代と送料に使わせていただきます。ありがとうございます。今後ともご支援をよろしく申し上げます。手数料のわからないゆうちょ銀行は19000-33109571